

佛教大学広報誌

B-ism

佛教大学

No.13

B-ism
No.13

発行日
2016年(平成28年)12月16日

発行者
田中 典彦

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 紫野キャンパス

巻頭特集 | スペシャル座談会

2 情報化社会、どう生きていますか？

- 6 「密着！白星ゼミ」教員・研究紹介 — 保健医療技術学部 理学療法学科 白星伸一 准教授
- 8 学生編集室の窓 — ローカルフード探検隊

10 01「研究報告

歴史学部歴史文化学科 齊藤利彦 准教授

12 クラブ・サークル見聞録

ワンダーフォーゲル部 軽音楽部 社会学部 現代社会学科 社会学部 現代社会学科 千葉芳夫 教授

13 Favorite 「先生のお気に入り」

「カメラと出かける時間」

14 輝き Close Up 活躍する学生たち

15 Listen Up BOG訪問

Hot-TOPICS 大学の動向

16 「佛教大学礼拝堂」(永谷幸正記念館) 竣工開眼式を動修ほか

20 Hot-TOPICS 大学の動向

22 B-Information みんなの掲示板

教育学部教育学科教授(学部長) 情報推進室長
篠原 正典
社会福祉学部社会福祉学科教授 教育推進機構構長

岡崎 祐司

社会学部現代社会学科准教授

作田 誠一郎

「情報化社会、どう生きていますか？」

学生の情報メディア利用と大学教育の最前線

毎日新聞社 石村綾子 || 司会進行

溢れる情報と、情報技術やメディアの使い方など、情報化社会は私たちに、高度な対応力を求めている。大学も大学生も例外ではなく、正否やメリット・デメリットを十分理解した上で、付き合っていかなければならない。

当初今号の座談会テーマは、「学生を取り巻く情報メディアの急速な普及に伴う問題点」だったが、先生方も熱が入り、学生への提言から大学教育のあり方まで発展。辛口なメッセージも身になることは間違いないので、ぜひ一読を。

— まず、篠原先生にお聞きします。情報伝達のスピードが速くなった現代において、教育現場はどのように変化しているのでしょうか？

篠原正典(以下、篠原) 世界的には、オンライン上での有名大学の講師による授業が受けられるなど、新しい情報メディアやツール

を活用した学習法はさまざまに実践されています。私も自身も講義でeラーニングを採用している。2000人規模の授業になれば、学生の顔と名前を一致させるのが難しいんですが、eラーニングを使えば、まず名前がわかるし、思考も理解できる。対面授業の時に名前を呼べば、顔も合致します。 教員の育成に関しては、

情報メディアの利点や危険性を理解している人間を育てなければならぬと考えています。スマートフォンもSNSも子どもの方が扱いに慣れている。先生は一層深くわかっていなければ注意もできない。社会変化があると、従来はまず大人が問題を認識して子どもに伝えてきたけれど、情報メディアの発展は逆の場合が多いんです。



— 少年非行やいじめ問題を専攻されている作田先生は、子どもとSNS等の関わりについてどうお考えですか？

作田誠一郎(以下、作田)

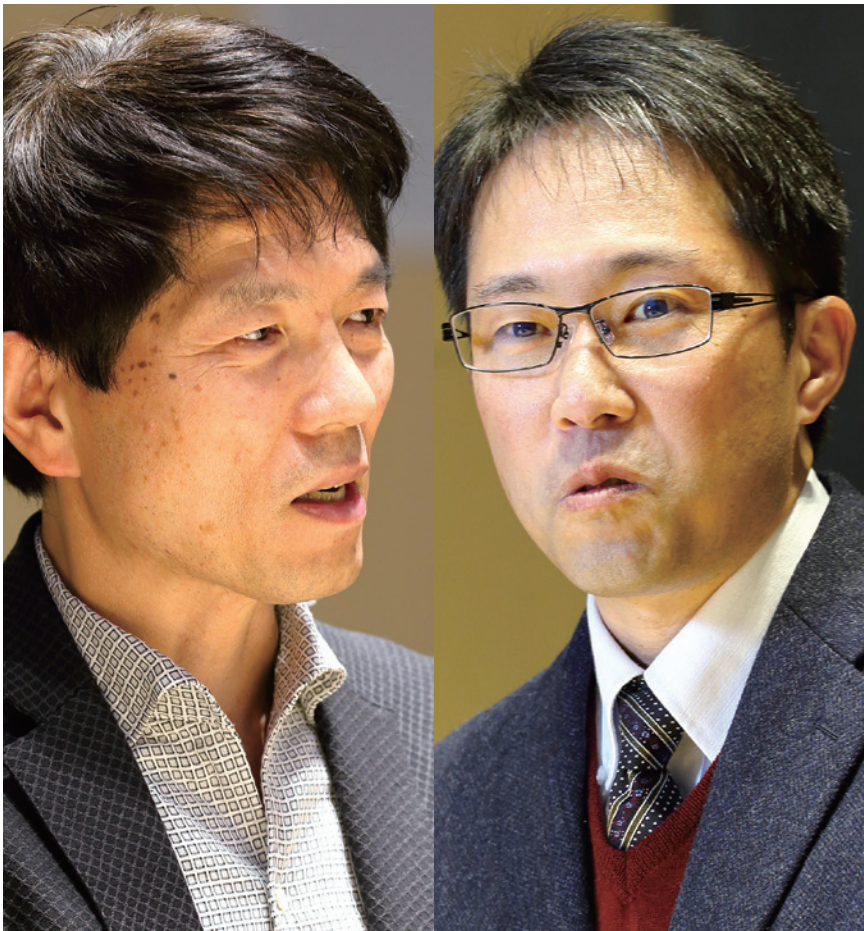
現代の子どもは、スマホやSNSの世界で人間関係が成立しています。彼らは、小さな集団の中でいかに自己肯定感、自己承認感を得るかに躍起になっています。SNSを介した、「いいね！」などの反応によって、他人に認められたと思うわけです。ただ、高校生を調査しても、自分の所属するグループがとにかく大切で、そこで非難されないように、神経を尖らせている。孤独にならないように気を使い、つながっているようで不安を感じている。そこにSNSが関与している、LINEでの「既読スルー」「無視」等が、不安感をおおきく引き起こしている。

— 岡崎先生は、情報化社会に生きる学生の特徴をどう捉えていますか？

岡崎祐司(以下、岡崎)

SNSは学生にとって重要な媒体。私も公私に使い分けていますが、学生とのやり取りで驚いたのが、就職活動の際に書くエントリーシートの写真を撮ってLINEに添付してきたこと。添削してくださいと言うんですね。また、SNS上で対立的な議論をすることの危険性がいまひとつわかっていない。言葉が過激になりすぎてだれでも疲れそうです。

しかし、情報技術の発展にもなう問題への対処は後追いにならざるを得ない。新しい技術が使われて、トラブルや摩擦が起こってから対処を考えざるを得ない面はある。それは、これからも繰り返されるでしょう。





篠原 正典

しのはら まさのり 鹿児島県立工学部電子工学科卒業、電機公社武蔵野電機通信研究所、NTT LSI研究所主任研究員、独立行政法人デジタル教育開発センター教授、研究開発部長を経て現職。専門は教育学、教育社会学、開発センター教授、研究開発部長を経て現職。専門は教育学、教育社会学、

篠原 ウェブ上にある情報を寄せ集めてレポートを作り上げる学生がいるんですが、これは情報を収集しやすくなったことの弊害。単なる情報であり、分析された知識ではないので、価値は薄いし、すぐに忘れてしまう。また、簡単にメールをすることに慣れてしまっ

や折衝力と言われる能力なのですが、情報技術の発達によって、相手を説得するために必要な、論理的な思考能力の低下が見られます。あと、敬語の使い方も雑になってきていますね。

「美感の伴う学習」を先行させること。検索の一件でも、前段階の知識を実感できていない点が問題なんです。『勘どころ』と言い換えてもいいが、学習における「今はこの知識や情報が必要だ」と判断しうる感覚は、地道な学習の積み重ねによってのみ得られる。そして、それを教えられるのは教員だけです。その感覚をつかんだ上でICT環境を利用すれば、昔よりはるかに多くの有益な情報、知識が得られますよ。

篠原 教育で培われる力に「①学んだ力②知識③学ぶ力」が挙げられますが、私は③に注力したい。自分に必要な情報を探し、知識に転換して活かす能力、岡崎先生の指摘する『勘どころ』、その強化に取り組みたいですね。教師をめざす学生には、論理的に物事を考えるという点を強調します。それを磨くためには、「なぜ、どうして」という疑問を呈する姿勢が求められます。万事疑ってかかることで、



作田 誠一郎

さくた ませいちろう 山口大学法学部シニア研究科アジア比較文化博士課程修了、山梨学院短期大学准教授を経て現職。専門は、少年非行論、教育社会学、犯罪社会学。

情報化社会の現状や学生が持つ課題に対して、大学ではどのような取り組みをしていくのでしょうか？

学生へのメッセージと合わせてお願いします。

新しいメディアや技術が登場すると、大人社会にある常識も揺らいでいく。だからこそ、目上に友達感覚でメールを送るのは問題外ですが、大人が歩み寄っていく必要性も感じています。

岡崎 まずは、教職員がSNS等の重要性和「使い方」に習熟しなければ。例えば、本学では、入学予定者向けに事前教育の場を設けているのですが、参加者が最初にするのは、同じく参加した人のツイッター探



点を明らかにするためのものなんです。傷つけるのではないかと恐れて、相互批判はしない。みんな優しい。ただ、見本を示せていない我々の責任もある。授業の一環として、教員が質の高い討論を見せることも必要ではないでしょうか。

理解が深まっています。作田 ゼミにおけるグループワークも論理的な思考を磨く機会。議論や共同作業の中で鍛えていこうとしているんですが、中々できない。最初の10分間は話しているけど、また途絶えてしま。小・中学校でグループワークを体験してきた世代なのにできないんです。相手に気を使っているのか、傷つけたくない、傷つけられたくないという思いが過ぎるのか。説明と改善の必要性を感じています。

篠原先生の言われる「現状を疑う」という姿勢も本当に大事で、大手メディアが放つ表層的で断片的な情報を鵜呑みにしては、本当のことがわからない。ICTが発達すればするほど粘り強く考え続けるという努力を、地道にやっています。岡崎 確かにゼミでは本格的な討論にならない。討論は互いの意見の相違や共通

ワークをはじめ外部との関わりを重視しています。個人での活動も大事ですが、グループで課題を見つけて、問題を抱える相手と関わりながら解決に向かってほしい。そして、その活動の成果をメディアで発信して、自己肯定感を得てくれればと期待しています。



岡崎 祐司

おかざき ゆうじ 佛教大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学、佛教大学社会学部専任講師、助教を経て現職。専門は、福祉医療政策論、地域福祉論。

**実感できる学びと教育を！
2020年に向けて
カリキュラム改革進む**

教育推進機構長
岡崎 祐司 教授

全学的に共通科目、教養科目のリニューアルを検討しています。考える力や専門研究を深化させるために必要な教養、新しい世界を知るための教養を得られるようなカリキュラムを用意したい。情報メディアも活用しながら、情報メディアから価値ある情報を探し出せる力を付ける。学習の勘どころを鍛えよう、実感できる教育を進めていきます。

篠原 「能ある鷹は爪を出せ」と言いたい。抜きに出るのが競争なのに、今の競争は他人に遅れまいとするものになっている。SNSを使ってでも自らの能力を発信、アピールして、どんどん成長して欲しいですね。

B-ism

2016
December

ある日の白星ゼミ
問題が出てきたら…
学生同士で解決!



ゼミ生は全7名。この日は3つの実験が進められ、実験者、被験者、助手を務める学生が、各々の役割に没頭している。すると、野球のスイングに関するデータを取っていたグループに問題発生。計測器とパソコン、ビデオカメラを用い、レベルスイング・アッパースイング・ダウンスイングの各動作による筋肉運動の違いを分析していたのだが、どのタイミングでどの筋肉が動くのか、データを取ろうとするものの、筋電図の波形と動作の整合性が取れず苦戦。頭を抱えること小1時間。ふと、被験者の学生が口を開いた。「動作をデジタル時計と一緒に撮影すれば、正確な時間が分かり、一致が図れる」。一同、なるほど!

問題が発生すれば、知恵を出し合い、解決する。3回生からグループワークを続けてきた、彼らのチームワークを垣間見ることができた。



B-ism

2016
December



繰り返し、数值的にも根拠のある答えを導き出せば、専門知識のない患者さんにも納得のいくリハビリテーションを提案できま

す。皆、今後はより突き詰めた検証を進め、論文にまとめていく予定だ。

白星先生は、学生の実験に対して極力干渉しない。質問があればアドバイスをするといったスタンスをとる。「私の目があると、失敗を恐れてしまう」。研究、実験は失敗がつきもの。「失敗によって新たな発見も生まれるので、たくさんするべきなんです」。

全ては、理学療法士として活躍する未来のため。実際の現場では、「医師や看護師などとチームを組みサービスを提供する」。そのため、「協力しあえる力」



「コミュニケーション能力」。コミュニケーション能力は必須だ。学生はときに実験者に、ときに被験者になって協力し合う。今、グループ研究の経験を重ねておくことで、「将来、積極的に他の研究に触れられる、自らの成果をも発信していける理学療法士になれる」。このような情報共有をすることで、さらなる研鑽が積まれ、より良い療法へと発展していく。「常に深掘りし、横展開する意識が大事なんです」。

白星ゼミでは、研究を進めることで、理学療法士に求められる能力が自然と磨かれていく。

「コミュニケーション能力」。コミュニケーション能力は必須だ。学生はときに実験者に、ときに被験者になって協力し合う。今、グループ研究の経験を重ねておくことで、「将来、積極的に他の研究に触れられる、自らの成果をも発信していける理学療法士になれる」。このような情報共有をすることで、さらなる研鑽が積まれ、より良い療法へと発展していく。「常に深掘りし、横展開する意識が大事なんです」。

「コミュニケーション能力」。コミュニケーション能力は必須だ。学生はときに実験者に、ときに被験者になって協力し合う。今、グループ研究の経験を重ねておくことで、「将来、積極的に他の研究に触れられる、自らの成果をも発信していける理学療法士になれる」。このような情報共有をすることで、さらなる研鑽が積まれ、より良い療法へと発展していく。「常に深掘りし、横展開する意識が大事なんです」。

Professorial Seminars

自発性と
コミュニケーション能力を鍛え
一人ひとりに最適なりハビリを!

保健医療技術学部 理学療法学科 准教授

白星 伸一

理学療法士が行うのは、運動療法や物理療法による医学的リハビリテーション。身体に障害がある人・発症の可能性のある人に、歩く、立つといった基本動作の回復や維持、悪化予防を目的に治療・予防を実践する。今回は、未来の理学療法士をめざす学生が集う白星ゼミに密着した。

白星 伸一(しらほし しんいち) 龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学。社会学修士(龍谷大学)。理学療法士。日本産業衛生学会、日本社会医学学会、コメディカル形態機能学会に所属。専門分野は健康応用科学、運動学。主な著書:論文に「オーチスのキネシオロジー 身体運動の力学と病態力学 原著第2版」(ラウンド フラット 1-976 2012年)、「運動観察から始める課題達成のための仮説検証作業」(『理学療法 湖都』No.30, 1-4 2011年)、「車いす使用者のVDT(Visual Display Terminals; VDT)作業における二次障害予防のための研究-VDT作業を行う脊髄損傷者における負担軽減事例についての検討」(『佛教大学保健医療技術学部論集』第3号, 2009年)など。

理学療法士には、療法に関する研究姿勢が求められる。常に最適なりハビリとは何かを追求していかねばならない職業なのだ。白星ゼミでは、ゼミ生が理学療法に関する研究を論文にしたため、発表。各々3回生から文献抄読や先行研究の調査、クラス内でのディスカッションを何度も繰り返し、テーマを明確にしてきた。今春行った病院・リハビリセンターなどでの実習を経て、テーマ・仮説立証のための実験と検証を進めているのが今の段階だ。「基礎知識を学びながら、自分たちで考察を深めていくことで、臨床現場で活躍する力が身に付いていきます」と白星先生は話す。

「まずは身の周りで感じたちょっとした疑問に対し、自分なりの仮説を立てることが研究への第一歩」と、白星先生。例えば、介護の現場で実践されている「青竹踏み運動」を追求するゼミ生がいる。竹などを踏みこむことで脚全体の血流を促し、転倒予防に効果があると言われているのは事実だが、一般的には「立って行う」イメージが浸透している。その学生は思った。「転倒リスクのある人が、立った状態で運動を行うなんて危ないじゃないか」。座位で行う青竹踏みの実験を開始したところ、驚きの結果が出た。安全はもちろん、立って行うよりもむしろ効果的であることがわかってきたのだ。「実験を



「ホルモンのおいしい焼き方」

今回調査した厚木の「シロコロ・ホルモン」とは豚の大腸の部分です。ここでは、現地で教わったおいしい焼き方をご紹介します。可能なら七輪を使って焼きたいところです。

生の状態で出てくる「シロコロ」は、一度に大量に焼くこと（“蒸し焼き状態”により、早く焼くことができます）、マメにひっくり返すこと、油が落ちる前にひっくり返すことがポイントとなります。食べたくまった方は、ぜひ厚木へどうぞ！

なうな掌話 その十八



Mission

神奈川県で「食のまちおこし」に取り組む団体を調査



私たちの学年は、神奈川県で活動している「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」（厚木市）と「三崎まぐろラーメンズ」（三浦市）という2つの団体を調査しました。「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」は、市民が主体となって運営している団体です。「シロコロ・ホルモン」を通してまちおこしを図っており、B-1グランプリで優勝するなど、まちの知名度を高めています。「三崎まぐろラーメンズ」は、「探検隊」とは対照的に事

業者が中心に設立され、自分たちでレシピを開発。三崎はマグロで有名ですが、そのマグロをラーメンの具材にするという点が新鮮で斬新だと感じました。どちらもこれまで知らなかったまちでしたが、「ご当地グルメ」とともに、まちそのものの魅力を味わう経験ができました。

団体へのアポ取りから研究論文の作成まで、すべて自分たちでやらなければならなかったため、大変なこともたくさんありました。それだけに調査を終え、原稿として形にできたときの達成感はひとおでした。活動の最後に「京都から発信する政策研究交流大会」（コンソーシアム京都主催）で研究成果を発表する機会にも恵ま

れ、多くの来場者を前に発表する経験ができたことはいい思い出になっています。



「プロジェクト演習」は、学生が大学を飛び出して社会の現場で学び考える、という実践型の授業です。2回生を対象にした社会学部の看板科目で、毎年8クラスが開講されています。そのうちの二つ「ローカルフード探検隊」（担当・上田道明教授）は、「食のまちおこし」をテーマに地域の取り組みを学びます。受講した学生が、学んだことや大変だったこと、体験談を語ります！

「ご当地グルメ」を味わうことは、まちの魅力を味わうことだ!!

社会学部 プロジェクト演習

ローカルフード探検隊

メンバーの一言

社会学部 公共政策学科 3回生

小田 祐輝



2回生のとき、プロジェクト演習「ローカルフード探検隊」を受講して色々な経験が出来ました。

私たちの学年が調査した2団体は、一方はトップダウンで迅速に行動する団体、もう一方は時間をかけて合意形成を大切にしている団体と、とても対照的で、組織のあり方の多様性に気づかされ、いい勉強になりました。たいへんなことも多かったのですが、現地で調査するグルメを実際に食べることができるので、食べることが好きな私にはとても楽しい授業でした。

先生から一言

社会学部 公共政策学科 教授

上田 道明



プロジェクト演習は、学外の方への働きかけを行う一方、他方では学生の自主性を重んじる授業です。学生たちは社会的経験が必ずしも豊かではありませんので、「ハラハラ」「ドキドキ」も少なくありません。この学年のときは、アポ取りの際ちょっとした言葉遣いの間違いで、調査の協力を断られかけた一コマがありました。

このような経験を2回生のうちにできるというのは一つの財産です。ぜひ、後半の学生生活や就職活動に役立ててほしいですね。

編集後記

今回、このページに掲載する写真を選んでいると、当時の様子だけでなく、その時の自分の気持ちまでよみがえってきました。

活動が上手くいかない苦しい思い、よりよい発表するために全力を尽くした熱い気持ち…。1年間「ローカルフード探検隊」の活動をしてきたからこそ味わえたのだと思います。この授業を通じて、いろんな気持ちを味わうことができました。これからいろんなことに挑戦していきたいと思っています。



「美と至芸の上方歌舞伎の世界へ」

芸能を歴史学という角度から探求

歴史学部歴史文化学科 准教授

斉藤 利彦



皆さんは「歌舞伎」と聞いて何を思い浮かべるだろう。古くからある芸能、絢爛なセットと衣裳、世間をにぎわせる役者―。いろいろとあるとは思いますが、今回のキーワードは「上方歌舞伎」。「役者の人物像や演技・演出、戯曲に関する考察は多々ある」が、歴史的に踏み込んでいる研究者は、斉藤利彦先生をはじめ、そう多くはない。

複雑な興行形態の
解明に挑む！

現在までその目は、近世上方歌舞伎の「興行」に注がれている。「江戸」で歌舞伎を上演するとなれば、座元と呼ばれる役者一人が、興行の権利（興行権）と一座の総責任者、芝居小屋の所有者のすべてを担う。しかし、上方はこの三権がバラバラで、多くの人が興行に絡み複雑。興行をめぐる、様々な思惑が交差すると言えるが、赤字等が出た場合のリスクを分散できるという点では合理的な興行形態だった。その他、役者へのギャラの支払い方法や興行権のあり方など、江戸と上方はまったくといってよいほど、その形態が異なる。このような「興行」という視点で、上方歌舞伎を見てきた研究者は少ない。「未到といっている分野なので研究する人は少ないですが、史料も多くはありません」。直接の史料が少な

スーパーマンの江戸色男の上方

上方歌舞伎は、近世に京都・大阪（大坂）を中心に隆盛した歌舞伎のこと。当時は江戸歌舞伎と人気を二分し、「江戸は様式美、上方は写実。荒々しい演技や演技様式を生んだ江戸に対して、上方は和らかい演技や演技様式である和事を生

んだ。その主人公は色男のぼんぼんなどです」。江戸時代の上方の役者は名跡などにはあまりこだわらず、自らの芸を大切にしました。そんな特徴的な美意識、ケレンといった人をびっくりさせるような演技や面白味を有する上方歌舞伎に、斉藤先生は魅せられてきた。

大阪は船場の商家の惣領娘として生まれ育った大の芝居好きの祖母、何より父が歌舞伎興行の先駆者である松竹で舞台技術者として小道具の係に従事していたことから、幼くして歌舞伎が身近だった。「父の手伝いで学生時にはアルバイトとして舞台に通って、いろいろな経験をさせてもらった。いまから考えると、歌舞伎研究における究極のフィールドワークでした」。本学

に入学し、芸能を研究にしようと考え始めていた矢先、恩師竹下喜久男先生から『天保撰要類集』なる史料を渡された。「江戸後期の天保の改革における、芸能統制に関する膨大な史料」だった。いくつもの史料、研究者との出会いが重なり、近世芸能史と上方歌舞伎の追究が始まった。



ドに選んだ大阪の「堺」も『誰も知らない場所』だった。堺は江戸時代、歌舞伎の盛んな地域であったことは研究者のなかでは知られていたが、何も考察はなされていなかった。斉藤先生は現地に足を運び、史料にあたり、多くの事実を解明してきた。

たとは、天保の改革は、芸能の統制としては史上最高レベルのもので、御触れを出した幕府の水野忠邦はとにかく強硬。「江戸の劇場の取り壊しを命じます」が、さすがにあんまりだと江戸町奉行が移転で話をつ

けた」史実もあるほど。ちなみに当時の奉行は遠山景元。あの『遠山の金さん』のモデルである。加えて役者の追放令など、徹底かつ執拗だった。当然、堺も取り締まりの対象で、忠邦は役者の旅興行の禁止等を発令し、堺を含む地域の興行を制限していく。しかし、堺も利潤を生む最大の娯楽を奪われて黙ってはいない。興行継続のために交渉を続け、やがて幕府も譲歩

いたため、史料を探し、関連史料を重ね、それらをひも解きながら、この分野を開拓した。

禁じたはずが大誤算
大物役者の舞台復帰表現！

興行研究がべールに包まれた分野ならば、フィール

「堺在住の役者を使うなら興行可」となったが、これが誤算。当時、改革の影響で、堺には大阪から役者が

流入しており、特に追放刑に処せられていた上方劇壇の総帥も滞在。二代目中村富十郎がその人で、『堺在住の役者だから』と舞台復帰してしまふ。これをきっかけに、堺は禁止以前より歌舞伎の興行が盛り上がりてしまふという皮肉な結果に。「難波の太夫と呼ばれた富十郎は堺在住後、堺の大太夫と称され、堺奉行から「旅役者取締役」を仰せつかっています」。

史料が大事
史料に語ってもらう

十数年にわたる堺・歌舞伎興行の研究は内外から高い評価を受け、佛敎大学研究叢書の一冊として刊行された『近世上方歌舞伎と堺』が平成24年度の歌舞伎学会奨励賞を受賞した。「地域の歌舞伎の通史を著した点が評価されたのでしょうか」。



「私」の論文は、『偉大な史料集』と言われたこともあり。ただ、後に続く人たちのためにそれも大事とされている。いま、斉藤先生は、自らの研究を深化させることも、恩師山路興道先生に教えられた芸能の香りのわかる研究者になろうと、日夜奮闘している。



斉藤 利彦(さいとうとしひこ)
1971年兵庫県生まれ。佛敎大学文学部史学科卒業、佛敎大学大学院文学研究科修士課程修了、佛敎大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。本学のアジア宗教文化情報研究所(現、宗教文化ミュージアム)でポストドクター等を経て、2012年より現職。専門は、日本文化史、日本芸能史、博士(文学)。主な著書・論文に『近世上方歌舞伎と堺』(単著・思文閣出版、2012年)、『近世堺と歌舞伎』(単著・大阪公立大学共同出版会、2008年)、『職能民へのまなざし』(共著・公財)世界人権問題研究センター、2015年)、『年中行事論叢 日次紀事からの出発』(共著・岩田書院、2009年)、『京の歳時記今むかし』(共著・平凡社、2006年)、『日本芸能の環境』(共著・京都造形芸術大学、2004年)など。



千葉 芳夫(ちば よしお)
1950年愛媛県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。大谷大学文学部助教授、佛教大学社会学部助教授を経て現職。専門は知識社会学。文学修士。主な著書 論文に「合理化とマクドナルド化」(分担執筆)(G・リッツァ、丸山哲央編「マクドナルド化と日本」ミネルヴァ書房、2003年)、「脱院術化と合理化」(『社会学部論集』第60号、佛教大学社会学部、2015年)など多数。

第十二回
社会学部 現代社会学科教授
千葉 芳夫先生の巻

先生のお気に入り カメラと出かける時間



カメラにしてからは、わざわざプリントする機会が少なくなりましたが、気に入った作品はSNSにアップしたり、プリントして部屋に飾ったり、マイペースに楽しんでいます。カメラとの時間は



出かけられる、でも急に雨なんていう日があると本当に悔しいですね。行ってみたい場所? たくさんありますが、一番は、全国の桜の名所巡りですね。これからの楽しみです。

撮り続けて50年… 全国の桜の名所巡りを計画中

暇をみつければ、デジタル一眼レフカメラを持って出かけています。写真撮影を趣味としたのは高校生の頃から。父親にフィルムカメラを買ってもらったことがきっかけです。当時は友達と出かけた時にスナップ写真を、大人になってからは我が子の成長を、いつの間にか、50年写真も撮り続けていました。最近は人を被写体にすることはあまりないですが、ゼミ合宿に出かけた際には学生を撮ることもあります。よく撮るのは、植物や風景。春には桜、秋には紅葉、冬にはロウバイなど、京都・大阪・滋賀界隈の名所や植物園などに出かけています。デジタルカメラにしてからは、わ

とても良いリフレッシュになっています。後から色味を交えるなど、加工・編集された写真も面白いとは思いますが、私はあまりやりたくないんです。例えば、きれいだと感じた風景の一部をピックアップし、その場でピントや明るさを調整して撮影する方が好きです。それだけでも、実際に目で見る風景とは異なる表情を見せてくれることがあるんです。美しい作品に仕上がった時は嬉しいですね。マイクロレンズを使って、植物をアップで撮ってみることもあります。自分で言うのもなんですが、カメラを持ち出した当初より撮影技術は成長しているように感じます。

今は忙しいので難しいですが、いずれはカメラを持って出かける時間をうんと増やしたいです。「天気が良い、でも仕事がある」、「今日は

Hello!!

クラブ・サークル見聞録

彼は

「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、
佛教大学のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼は(あれこれ)を
部員が自ら紹介、語ってくれます。

ワンダーフォーゲル部



絶景&登山中のごはんは最高!
行程管理のスキルアップにも

歴史学部 歴史学科3回生
前嶋 陽亮さん

最大のイベントは、夏合宿。1週間もかけて登るので、荷物の重量は一人あたり25〜30kgにも及びます。普段は上回生が登る山を決めますが、この時だけはみんなでプレゼンし合っています。そしてリーダーや食事係などの役割を振り分け、精査しながら当日の行程を組み、本番に臨みます。これまでさまざまな日本アルプスの山に登ってきました。今年登ったのは山梨県南アルプス市にある「北岳。標高3,193m、日本で2番目の高さを誇るだけあり、どこまでも美しい景色が続いていました。道が険しく多難ではありましたが、その分、テント場で食べた「ちゃんちゃん焼」はとても美味しかったです。この素晴らしい景色と食事があるからワンダーフォーゲルはやめられませんね。

秋冬はオフシーズンなので、校内に設置



活動日:月曜・水曜・金曜 活動場所:紫野キャンパス

されているクライミング用の人工壁を登ったり、重い荷物を背負って学校周辺の坂道や山道を登ったり、各々が自分に合った筋力トレーニングを重ね、本番に備えます。自身の体力づくりや当日の行程づくりといったスケジュール管理能力は、社会に出てからも役に立つと思います。私の場合、今は趣味のロードバイクで活用しています。行程を立ててはしょっちゅういろんな場所に行っています。

今年で創部50周年。祝賀会ではたくさんOBの方とお会いし、昔の登山道員を見ることもでき、貴重な体験となりました。現在、部員は13人です。ほぼ未経験、中には運動部の経験さえない人もいますので、初心者でも心配はいりません。4月には神戸の「六甲山」で体験登山を行うので、興味がある方はぜひ一度来てみてください。

軽音楽部



演奏から設営・音響演出まで
ライブのノウハウが身に付く

社会学部 現代社会学科3回生
村井 智恵美さん

楽しくなきゃライブじゃない! 私たちは「NO ENJOY NO LOVE」をスローガンに、部員同士でバンドを組み、学内外でライブ活動を行っています。

今はコピーバンドが多いのですが、もちろんオリジナルバンドを組んでもOK! 部員数は現在84人、流行りの邦ロックからインストゥルメンタルまで、みんな幅広いジャンルに取り組んでいるので、今まで興味が強かった音楽にも挑戦できます。鷹陵祭や学内音楽団体との合同ライブ、他大学とのジョイントライブなど、演奏の場も多数! しかも、ただ演奏するだけではなく、毎回のライブではステージ設営から音響操作、演出まで全て部員が行っています。ライブ中も各部員に役割が設けられており、設営・音響・演出の技術強化を図るための実践練習も定期的に行っています。6月

には新入生がメインで出演する学内ライブを開催。常に先輩がサポートしてくれるので、初めての方でも大丈夫です。実際、部員の半数以上が初心者。私も大学からベースを始めましたが、今ではたくさんさんのライブに出演しています。春夏の合宿では、その後のライブ出演を競う部内ライブを行います。部員全員からのアンケートをもとに決まるのですが、選ばれるのは全40組中たったの10組程。普段は楽しい部活も、この時はみんな真剣に挑んでいます。毎年3月にある4回生の引退ライブでは、中々出演の機会がなかったバンドも演奏します。メンバーのバンドへの強い思いに、つい感動してしまいますね。

大学生活で何か一つやり遂げたいのなら、ぜひ軽音楽部へ!



活動日:月曜~日曜(各々都合の良い日時)
活動場所:鹿浜館、京都市内のライブハウス

走り、学び続けること、それが大切なんやで

株式会社リゾートケアハウス 代表取締役

ホルム・麻植 佳子さん

佛敎大学通信教育課程文学部英文学科 卒業
佛敎大学大学院教育学研究科生涯教育専攻修士課程修了



ホルム・麻植 佳子(ほるむ おえいけい)
大阪府出身。1972年に看護師免許取得。翌年ナールへの医療ボランティアに参加。76年よりスウェーデンに在住し、厚生省の看護師認定を受け、現地の病院で勤務。83年に帰国し、看護専門学校に教員として勤務の傍ら、本学の通信教育課程文学部英文学科に入学し卒業。すぐに大学院に進み、96年修了(教育学研究科)。博士号は大阪大学にて取得。国内外で看護・介護に関する教育や講演活動を行いつつ、起業し老人ホーム等を運営。現在は長野県を拠点にしている。

■ **死と向き合ったナール**
■
どこから話し始めればいいのか。看護学校時代、アジア諸国での体験、スウェーデンでの日々、教員、介護コンサルティング業、大学生、老人ホーム経営。傍から見れば、どれも人生のハイライトと呼べるものばかりだ。「ずっと戦ってきた」。ホルム・麻植佳子さんの生き方を振り返る。
大阪の高校を卒業後、看護教育者をめざし看護学校に入学。夢が現実になつく頃「もっと経験を積まなければ」と、渡った先がナール。医療ボランティアに従事し、「橋上で朝会った人が、夕方には死んでいる。そんな光景を何度も見た」。いくつもの不幸な死に接して、命の大切さを痛切に感じた。その後のスウェーデン滞在が最大の転機。訪問時の1970年代、すで

■ **日本にスウェーデン式の福祉を**
■
高齢化が進むが介護体制は整わない80〜90年代日本で、取り組んだのは三つ。一つは啓蒙活動。「高齢化に適応する社会構築」のため、講演・教育活動を通して福祉のあり方に一石を投じた。次に人材育成。当時概念すらなかったヘルパーの養成を開始し、「正義と愛の理念と方法論」を説いた。今や教えた各々は各地で活躍中だ。最後にコンサルティング。会社を興し、老人ホームの設立・立て直しや、企業連携による介護仕様の家づくりなど、多忙だった。「でも、意識は変えられなかった」。いくら声をからし、足を棒にしても「日本はスウェーデンにはなれない」と悟った。国を挙げて変わろうとする姿勢がない限り、「介護は女がするもの」といった古い考えが払拭されない限りダメだと。



B-ism
2016 December
経営する老人ホームでは、スタッフの働きやすさも追求し続けている

訪問

に福祉国家だった同国の恵まれた環境に驚く。現地で見習いとして働くために、「視力が落ちるほど」勉強した。病院に勤務し、暮らした10余年、特に惹かれたのが高齢者の看護・介護だった。「日本の雑居房のような施設とはまるで違う。手厚く、認知症患者に対するいき届いたケアを母国でも」。決意を胸に帰国した。

しかし、あきらめたわけではない。現在、長野県茅野市で運営する老人ホームやグループホームが希望だ。「ここに在宅医療・看護・介護の拠点を築く」。風光明媚なこの町で、個人の尊厳を大切にしたい北欧式の介護ケアを展開する、理想の福祉環境を整えようとしている。



社会福祉学部社会福祉学科 3年生
多田 哲也さん

学生にしかできないことを
自分の今と未来のために

田植えに、カフェに、L・A・に、カンボジア！
アクティブ、アクレッシブ、ポジティブ。多田哲也さんを形容するワードはとにかくどれも情熱的だ。これまでの大学3年間の活動記録には本当に驚かされる。
入学してすぐ、本学の海外語学研修「B・U・L・A・集中講座」に参加。福祉施設やホームレスが住む地域に衝撃を受けた。ちなみにこの講座で知りあった友だちと今京都で一緒に住んでいるらしい。2回生時には本学が「社会連携センタープロジェクト」として実施している南丹市美山町での酒米作りに参加。当初は田植えが体験できたらいいという感覚だったが「作った米がどうなるのか見なくなると」と、酒づくりへスライド。「佛米！夢乃酒」の完成まで携わった。続いて、美山町と同じく本学のコミュニティキャンパスである北野商店街の拠点施設「ゆいまゝる」(京都市北区)で、仲間と共に期間限定のカフェをオープン。メニューの考案と調理、運営等忙しい日々を送った。
極めつきは今年の夏だ。海外インターンで飛んだ先はなんとカン

ボジア。「授業で講師をされていた企業の方から、興味があれば紹介するよと言われて」、すぐさま申し込んだ。「日系の食品卸しの会社で、在庫管理と営業を任せられました」。簡単な説明を受け、「売って来て」と商品リストと名刺を渡されて、たった一人、さすがに途方に暮れた。だが、簡単な英語と行動力を発揮して、2週間で5件の契約を取ってしまった。「会社もさすがに驚いていました。でも、成約まで帰国しなければいけなかった」と残念がるが、濃密な5日間だった。
活動のすべては自己肯定と夢のために
道で困っている外国人がいたら話しかけずにはいられない性分。現在(取材当時)は「京都・三尾活性化プロジェクト」に勤しむ。いやはや、一体どうしてこんなにも活動的で能動的なのか。「高校卒業後に、進学したいと思いつつも就職を選んだんです。でも、やっぱり大学生になりたかった」。その強い欲求は、本学を探し当て、学生にしかできないことをやり尽くそうという決意に昇華した。「あとは学費を払っている以上、参加しないと損でしょう(笑)」。
これまでの経験は「どこでも生きていける」という自信に変わっている。「今僕がやっているのは自己肯定であり、未来につながる活動なんです。未来とは、ゲストハウス兼カフェの経営だ。「京都で外国人観光客と地元住民の交流の場を作りたい。学生のうちに起業したいですね」。実現に向かっていこうという確かな実感がある。これまで増やした経験値の投入先も決まった。今までどおり突き進んでいくだけだ。



「佛敎大学礼拝堂」(水谷幸正記念館)竣工開眼式を勤修

10月22日、本学創立記念式典を前に、法然上人の御教えを涵養する場として、また佛敎大学開学100周年記念事業の一環として、昨秋より紫野キャンパスにて建設を進めてきた「水谷幸正記念館」の竣工開眼式を勤修いたしました。

開眼式には本学教職員や関係者が参列し、田中学長を導師に法要が営まれ、学校法人佛敎教育学園豊岡繚尔理事長ほか関係者からのご挨拶を頂戴いたしました。

礼拝堂は、直径約35mの円形の建物で収容人数は約280名。屋根や天井はハスの花をモチーフにデザインされ

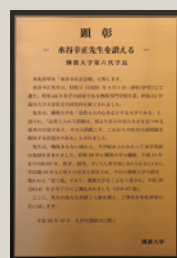
ています。

なお、礼拝堂の落慶式は紫野キャンパスリニューアル事業がすべて完了後の来年春に行う予定です。



「水谷幸正記念館」命名の由縁について

水谷幸正先生は、昭和24(1949)年に本学の前身である佛敎専門学校をご卒業後、昭和26(1951)年佛敎大学に入職されて以降、約60年の長きにわたり、教育、研究、そして人材育成にあたられるとともに、昭和54(1979)年から10年間、第6代の佛敎大学長を務められました。佛敎大学を「法然上人の心を心とする大学である」と語られ、今日の佛敎大学の礎を築かれた「育て親」であり、佛敎大学をこよなく愛された水谷先生は、平成26(2014)年2月7日ご遷化されました(享年87歳)。本学では、水谷先生の偉大な功績と人徳を讃え、ご尊名を礼拝堂の名に冠しました。



礼拝堂に掲げられた顕彰版



2015年11月撮影

2016年2月撮影

2016年4月撮影

2016年5月撮影

祝! 「わくわく狂言」10周年!

本学が地域への施設開放「開かれたキャンパス」事業として2007年より始めた「わくわく狂言」が今年、10回目を迎えました。第1回からご出演いただいている京都の能楽師大蔵流狂言方、茂山千五郎家の千作さん、千五郎さんに10回目の上演を前に話を伺いました。

10回目を迎えて今のお気持ちは?

茂山千作(以下、千作) 十年前、家が浄土宗派、私が佛敎大学で講師をさせてもらっていたご縁で、公演のお話をいただきました。回を重ねるごとに皆さんも増え、喜んでもらっているという実感があります。

茂山千五郎(以下、千五郎) いろいろな曲をやることで、難解だという狂言への後ろ向きのイメージが変わってきた気がしますね。

10月9日にお二人はそれぞれ五世千作、新当主十四世千五郎を襲名されました。

千五郎 三百年以上続く家の当主とな



茂山 千五郎 ◆1972年生まれ。76年に初舞台。2008年「京都府文化賞奨励賞」受賞。2016年十四世茂山千五郎襲名。



茂山千作 ◆1945年生まれ。49年に初舞台。94年に十三世千五郎を襲名。2016年「旭日双光章」受章、五世茂山千作を襲名。2006年4月から2011年3月まで、また2012年4月から2013年3月まで佛敎大学客員教授を務める。

茂山千作さん・千五郎さん父子に直撃インタビュー

ったわけですが、すぐに実感はありませんでした。日が経つにつれて責任の重さを感じています。千作 襲名発表の記者会見の時、息子から「親父には老後を楽しんでほしい」と言われてみんなに向かってピースサインしました(笑)。一門をしっかりまとめてもらって、お客さんに楽しんでもらえる狂言をお願いしたい。

千五郎 皆から信頼される千五郎になれるように精進します。

1千五郎家の狂言は「お豆腐狂言」と言われますが。

千五郎 元々は悪口。明治期の二世千作は、狂言をより多くの人に見てもらいたいという思いから、地蔵盆や結婚式などいろんなところに出向いて演じていました。それをどこへでも行く「お豆腐のような奴だ」と揶揄



B-ism

2016 December

「熊本地震」被災地への学生ボランティア派遣、報告会の実施



「災害対策室」を設置

京都市指定避難所等に指定されている本学では、防災の日の9月1日にあわせて「災害対策室」を設置しました。
学内外における防災体制および対処法などを整備し、学生や近隣住民の安全を図ります。
室長には、保健医療技術学部の松岡千代教授(専門分野:高齢被災者の災害看護)が就任し、室員として教員2名、職員6名を配置しています。

8月3日〜22日の間、学生総勢20名が3班に分かれ、「熊本地震」被災地の益城町へ赴き、益城町総合体育館および体育館隣接の集会所「よかましきハウス」で、被災した子どもたちの学習支援や遊び相手、高齢者との交流などを行いました。
また、集会所関係者の方による案内のもと被災地の現状を視察し、同窓生が住職をつとめる寺や、熊本学園大学、鎮西中等高等学校など市内各所を訪問し、現地の当時の様子などを伺いました。
学生は大学に戻り、活動内容と現地状況をまとめ、10月に学内で報告会を実施しました。



第50回「鷹陵祭」を開催

11月4日〜6日の3日間、本学紫野キャンパスで、学生の祭典「鷹陵祭」を開催しました。
今年度は第50回を迎えるにあたり、佛教大学の学生、教職員はもちろん同窓生、周辺地域の方々などが鷹陵祭に参加していただくことでそれぞれが想い描く50回(吾)目を楽しんでいただきたことと願うから「我想ふ、故に吾あり」をテーマに掲げ、恒例の模擬店、展示、ライブ演奏など各種企画、またゲストに「Little Glee Monster」を招いてのコンサートや、内場勝則座長による「吉本「ミニ」新喜劇」が行われました。
日程が週末と重なり天候にも恵まれ、連日たくさんの方にご来場いただきました。

■インタビュー



第50回鷹陵祭
実行委員会委員長
社会福祉学部
社会福祉学科 3年生
秋山 優幸さん

半年におよぶ準備とチャレンジが結果!

今は3日間を特に大きなトランプルもなく乗り切れたことにホッとしています。5月から、およそ半年をかけて念入りに準備を重ねてきました。新喜劇開催や福引イベントをはじめ、各部署で企画を出し合い、実現のために奔走。50回という記念の中でプレッシャーも感じながら皆本当によく頑張ったと思います。来年は委員会を見守る立場になります。後輩たちには、今年より魅力的な「鷹陵祭」の実現を期待します!

B-ism

2016
December

佛教大学小学生俳句大賞

第10回記念企画

親子で俳句〜ねんてん先生と俳句をつくらう〜



きらりと輝く

坪内稔典

小学生は心身の全体を使って言葉を身につけようとしている。その小学生たちが、言葉って楽しい、言葉っておもしろい、と思ってくれたら、読んだり書いたり、話したり聞いたり、あるいは考えたり感じたりすることが、とても生き生きとするのではない。

右のような思いに根ざして始まった小学生俳句大賞が、はやくも10回目を迎えるとしている。毎回、全国の方を越す小学生が参加してくれて、数々の忘れがたい句を生み出してきた。

弟の首がすわって夏が来た
友定果音(小5・広島)
せんたくき昨日のユズの香りする
中谷麗夢(小5・大阪)
立夏のころ、私はきまって友定さんの句を思い浮かべる。夏という生気に満ちた季節を具体的な像として見事に表現しているから。そして、冬至の翌日を表現した中谷さんの作にはくすつと笑ってしまう。この句には日々の楽しさがやはり見事に表現されている。
佛教大学小学生俳句大賞は、全国の小学生たちの言葉がきらりと輝く場なのかもしれない。

全国の小学生に、俳句を通して言葉の楽しさを体験してもらいたいとの願いから始まった「佛教大学小学生俳句大賞」も今回、第10回を迎えます。
そこで記念企画として、「佛教大学小学生俳句大賞」の第1回から選考委員をつとめていただいている、ねんてん先生でおなじみの俳人、坪内稔典先生(本学名誉教授)を講師に、親子で一緒に俳句をつくるイベントを、11月5日に本学四条センターで開催しました。

当日は、事前に申し込みいただいた小学生と保護者11組24名が参加。最初は、言葉の体操「しりとりに」から始まり、秋の季語を使って五・七・五を詠みあげるなど、ねんてん先生の分かりやすい解説のもと、小学生たちは初心者も経験者も関係なく、俳句づくりを楽しんでいました。

作品募集 テーマは自由! どんな俳句もOK!

子どもたちの小学生の言葉の世界を生き生きとしたものにしていくために、第10回となる今回も、俳句作品を募集しています。
本学ホームページに募集要項、個人、学校それぞれの応募フォーム、第9回までの受賞作品を掲載しています。
全国の小学生の皆さんからの多数の応募をお待ちしています!

第10回 佛教大学 小学生俳句大賞

応募資格 ● 小学生 応募部門 ● 低学年の部(1~3年生) 高学年の部(4~6年生)

作品募集 応募締切 2017年1月31日必着

詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/haiku/>

第9回佛教大学小学生俳句大賞 最優秀賞作品

低学年の部
たおれてる自でん車さえもねっちゅうしょう
京都府 立命館小学校2年 金田 伶子

高学年の部
カマキリがジャングルジムにさかだちだ
石川県 白山市立北陽小学校4年 森下 莉子

テーマは自由!
どんな俳句でもOK!

全国の小学生のみんなから
俳句を募集!!

1 「平和でつながる“縁”原爆展」を開催



社会福祉学部が企画、運営する「原爆展」は、平和について考える機会として、被災60年の2005年から毎年、紫野キャンパスで開催しています。

7月6日～8日に開催した今回は、原爆に関するパネル展、原爆小頭症患者である川下ヒロエさんの詩画展、花垣ルミさんの被爆体験談を聞く会などを催しました。

4 「第7回佛教大学ホームカミングデー」を開催



今年も鷹陵祭最終日（11月6日）に紫野キャンパスで開催し、全国から約400名の同窓生が大学に帰ってきてくれました。

今年は、通信教育課程同窓会（鷹陵同窓会）が創立60周年、文学部中国学科が開設30周年、歴史学部の前身である文学部史学科が開設50周年にあたり、記念講演会や祝賀会が催されました。

また、今回の試みとして学内教職員から募った古本（約760点）を販売しました。売上金は全額、本学の「未来支援寄付金」に寄付されました。



2 佛教大学放送局、「大学対抗実況コンテスト」で第3位

プロ野球2軍公式戦の実況技術を競う「第5回大学対抗実況コンテスト」（オリックス・バファローズ主催）に、本学はじめ関西圏の7大学が出場しました。

第2回大会で最優秀賞を、第4回は優秀賞を受賞した本学放送局は、今回は惜しくも優秀賞に次ぐ、第3位でした。



3 歴史学部学生が今宮神社の石造物を調査



本学開講科目「地誌学文献研究」（担当・植村善博教授）を受講する歴史文化学科の学生16名が、紫野キャンパス近くの今宮神社（京都市北区）境内や参道の石碑、灯籠、鳥居、狛犬など116件を確認、その特徴と年代、碑文内容を明らかにし、『今宮神社石造物調査報告』（A4判42頁）にまとめました。

5 佛教大学福祉教育開発センターシンポジウムを開催

12月4日、本学常照ホールにて「私たちが考える『新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン』」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

2015年9月に、厚生労働省が発表した「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現―新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン―」に掲げられた方策等について、シンポジウムでは井上英夫氏（金沢大学名誉教授、本学社会福祉学部客員教授）による基調講演（テーマ「平和、人権を基調とする福祉の提供ビジョン」）、そして「貧困」「災害・減災」



「社会的排除」の観点からそれぞれ問題提起、全体討議がなされました。

6

今年の強化指定スポーツ（硬式野球部・陸上女子中長距離部門）

硬式野球部は、京滋大学野球連盟春季、秋季リーグ戦で優勝を逃し、全国大会出場は叶いませんでした。

陸上女子中長距離部門は、関西学生対校女子駅伝で7位に終わり、2000年に強化

指定して初めて、全日本大会出場を逃しました。

両団体とも選手は悔しさをバネに日々練習に励んでいます。今後ともご声援よろしくお願いします。

2017(平成29)年度前期 通信教育課程入学説明会

開催日	開催時間	開催地	開催会場	種別※	開催日	開催時間	開催地	開催会場	種別※
1月21日(土)	13:00~16:00	京都	佛教大学 (紫野キャンパス)	合同	2月12日(日)	11:00~16:00	東京	新宿エルタワー 30階	合同
		福井	福井県中小企業産業大学校	福井県主催 合同			新潟	朱鷺メッセ 2階	合同
1月29日(日)	11:00~16:00	東京	新宿エルタワー 30階	合同	2月18日(土)	11:00~16:00	大阪	梅田スカイビルタワーウエスト 10階	合同
2月4日(土)	11:00~16:00	横浜	横浜新都市ビル(そごう)9階 新都市ホール	合同			福岡	エルガーラホール 8階	合同
		岡山	イオンモール岡山 5階	合同	2月19日(日)	11:00~16:00	名古屋	愛知県産業労働センター 7階	合同
2月5日(日)	11:00~16:00	大阪	梅田スカイビルタワーウエスト 10階	合同	2月25日(土)	11:00~16:00	仙台	イベントホール 松栄ホール 6階	合同
2月11日(土祝)	11:00~16:00	名古屋	ミッドランドスクエア 5階ホール	合同			札幌	アスティ45ビル 4階	合同
		さいたま	大宮ソニックシティ B1階 第一展示場	合同	3月中旬(予定)	18:00~20:00	京都	四条センター	単独

※種別について 単独：本学単独の入学説明会です。はじめに全体説明会を行い、その後目的別に説明を行います。
 合同：私立大学通信教育協会主催の合同入学説明会です。先着順にて個別相談をお受けします。

お問い合わせ:生涯学習部

宗教文化ミュージアム イベントカレンダー(2017年1月~3月)



宗教文化ミュージアム

宗教文化に関する有形・無形文化財の調査・資料収集および保存・公開、宗教文化情報の高度利用化などを行い、その成果を広く公開しています。

- 開館時間 10:00~17:30(※入館は17:00まで)
- 入館料 無料
- 休館日 ホームページ等でご確認ください

アクセス

- JR京都駅より京都市バス、「山越」より徒歩13分
- 三条京阪前より京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢校前」すぐ
- 佛教大学紫野キャンパスより京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢校前」すぐ

お問い合わせ先

宗教文化ミュージアム
 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
 TEL:075(873)3115 FAX:075(873)3121

日時	内容
1月14日(土) 14:00~ 有料公演 鑑賞料:1,000円 <small>要事前申込</small>	第34回シアター公演「 聲明 — 極楽のハーモニー — 」 出演:七聲会、グレン・ニービス氏(タブラー奏者)、南沢 靖浩氏(シタール奏者) 解説・出演:中川 博志(本学非常勤講師)
2月11日(土・祝)~3月25日(土)	冬期企画展(生誕100年記念)「 佛大逍遙IV — 竹田聰洲 — 」
2月11日(土・祝) 13:00~	冬期企画展関連シンポジウム(生誕100年記念)「 竹田聰洲の人と学問 」 基調講演:八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者) 研究報告:村上 忠喜氏(京都市文化財保護課技師)、菊池 暁氏(京都大学人文科学研究所助教) 大谷 栄一(本学社会学部教授)、大野 啓(本学非常勤講師) 斉藤 利彦(本学歴史学部准教授、本館兼任学芸員) 八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者)

2017年4月以降のスケジュールは、2017年3月中旬頃にホームページに掲載予定です。



福島県沖を震源としたマグニチュード7.4の地震が起きた日に、編集後記原稿を書いています。
 今年は熊本、鳥取をはじめ、全国各地で大きな地震が起きました。地震で被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。
 今号掲載のとおり、本学では、被災地への学生ボランティア派遣、また、学生や近隣住民の安全確保を図る「災害対策室」の開設など、微力ながらお力になりたいと思っています。

佛教大学広報課

2016
 December

読者プレゼントの **お知らせ** 10名様
 佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。

10名様
第9回 佛教大学小学生 俳句大賞入賞作品集

10名様
 佛教大学マスコットキャラクター「ぶったん」のボールペン

BUまなび隊公開講演会
 (通信教育課程に関するお知らせ)参照

Date 1/28 (sat)

一般入試A日程
 (入試に関するお知らせ)参照

Date 2/1 (wed)・2 (thu)・3 (fri)

始講式
 Date 1/7 (sat)

B-Information
 みんなの掲示板
 2017年 主な行事予定

佛教大学公式Facebookページを開設しています!

本学ホームページ同様、大学の“今”を発信しています。ぜひご覧ください。

【公式FacebookURL】
<http://www.facebook.com/bukkyo.univ>

平成29年度入学宣誓式
 Date 4/1 (sat)

前期学位記、卒業証書授与式
 (通信教育課程)
 Date 3/25 (sat)

学位記、卒業・修了証書授与式
 (通学課程3月卒業修了)
 Date 3/18 (sat)

一般入試B日程
 (入試に関するお知らせ)参照
 Date 3/5 (sun)・6 (mon)

入試に関するお知らせ 2017(平成29)年度 佛教大学入学試験日程

試験日	出願期間	試験会場
2月1日(水)・2日(木)・3日(金)	1月5日(木)~16日(月)(消印有効)	本学(紫野キャンパス)・東京・金沢・名古屋・米原・福知山・大阪・神戸・奈良・和歌山・米子・広島・高松・福岡 ※試験会場によって試験実施日が異なります。

試験日	出願期間	試験会場
3月5日(日)・6日(月)	2月13日(月)~20日(月)(消印有効)	本学(紫野キャンパス)・名古屋・彦根・大阪・神戸・岡山

試験日	出願期間	試験会場
前期 ◎センター試験日 1月14日(土)・15日(日)	1月5日(木)~13日(金)(消印有効)	※個別学力検査は実施しません。
後期	2月13日(月)~28日(火)(消印有効)	※個別学力検査は実施しません。

お問い合わせ:入学部 ※大学院、編入学、社会人1年次等の入試について、詳しくは本学ホームページ「入試情報」をご確認ください。

通信教育課程に関するお知らせ

BUまなび隊(公開講演会)開催予定 「BUまなび隊」は通信教育課程が開催する地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	都市	会場	講演内容	申込方法
1月28日(土) 13:00~15:35	大阪	大阪市中央公会堂	●「教育と未来 ~生きる力を未来へ託せるか~」 基調講演講師:齋藤 孝氏(明治大学文学部教授) パネルディスカッション パネリスト:齋藤 孝氏、田中 典彦学長、松本 美奈氏(読売新聞東京本専委員) コーディネーター:毛利 聡子氏(フリーアナウンサー)	通信教育課程 ホームページ に掲載

お問い合わせ:生涯学習部